

朝日俳壇

有料記事朝日俳壇 2024年2月11日

☆印は共選作

<長谷川權選>

主婦歴も鞍（あかぎれ）歴もながながし（四街道市）大塚厚子

日向（ひなた）ぼこ能登を思へば勿体（もたい）なや（高岡市）野尻徹治

元日夕「にげてください」連呼せり（倉敷市）森川忠信

舟唄を聴くしんしんと冬があり（越谷市）新井高四郎

☆涸沼（かれぬま）の最後に光あるところ（静岡市）松村史基

湯の中のわが手わが足春を待つ（平塚市）日下光代

能登思ふ明朝（あした）は雪と聞けばなほ（市川市）阿部弘子

雪折（ゆきおれ）や舐（な）めて治せし腕の疵（きず）（八王子市）長尾博

山眠る狼（おおかみ）の夢熊の夢（岐阜県垂井町）北嶋克司

戦なき星を見上げてごまめ嚙（か）む（草津市）あびこたろう

【評】一席。主婦の歴史を刻む鞍。手当て怠りなく。二席。能登半島地震の同じ被災地といっても。隣の富山県の人。三席。NHKアナウンサーの絶叫。あれで救われた人多数。十句目。戦争の神（マース）の名を持つ火星でさえ戦争はない。

<大串章選>

大小の水鳥湖水分かちけり（今治市）横田青天子

探梅や小さき橋に名を見つけ（東京都世田谷区）百瀬俊夫

凍蝶（いてちょう）の岩に溶け込む模様かな（玉野市）加門美昭

定年の無き政治家や鬼やらひ（さいたま市）齋藤紀子

垂紀偲（しの）ぶ歌の数々新年会（立川市）笹間茂

ふるさとの終着駅や雪あかり（福島県伊達市）佐藤茂

嘶家（はなしか）の手に熱爛（あつかん）のみえるよう（川崎市）小関新

息白く大事なことをささやけり（東京都世田谷区）須藤渉一

☆涸沼の最後に光あるところ（静岡市）松村史基

【評】第1句。能登半島地震で地盤が隆起し、海に立っていた「ゴジラ岩」が陸続きになった。第2句。大きな白鳥や小さな鴨（かも）たち、それぞれ湖を楽しんでいる。第3句。この「小さき橋」の名前は何だろう。探梅にはこうした出合いもある。

<高山れおな選>

患者の夜をしろじろとして牡蠣（かき）の殻（東京都新宿区）各務雅憲
シャンプーの香のぷんぷんと猫の妻（伊万里市）萩原豊彦
ラガーらを遠景に置く葬儀かな（横浜市）飯島幹也
昼の月ベンチに仰ぎ日向ぼこ（高槻市）日下遊々子
寒鯉（かんごい）の沈思に太りゆくばかり（日立市）加藤宙
能登寒し龍（りゅう）のたうちし爪のあと（北九州市）安部大眞
学位得てふるさと歩く小春かな（伊賀市）福沢義男
ともかくも喰（く）つても言へ闇夜汁（矢板市）菊地壽一
雪女道なきところ好きと云（い）ふ（玉野市）勝村博
大寒や脳が欲しがるチョコレート（岡山市）曾根ゆうこ

【評】各務さん。飽食し酒が廻（まわ）り、私は今「患者」である。萩原さん。湯上（ゆあが）りの人間の（作者の）妻に、折しも聞こえる恋猫のイメージを重ねて。飯島さん。同時投句に〈東京の火事を見ている宣教師〉。共に俳句的遠近法のうちに配合の妙が。

<小林貴子選>

グラタンを元気にしたるブロッコリー（札幌市）伊藤哲
図書館のストーブ僕のためだけに（京都府京丹波町）三井田秀太
自認するチキンハートや大試験（下田市）森本幸平
パレットもう洗ひ納めや山眠る（札幌市）樋山ミチ子
ラグビーのボール立たせて後退（あとずさ）る（浜松市）久野茂樹
北風が心の傷を広げさせ（宇都宮市）古野景子
二つだけ白川郷のこもりがき（京都市）岡村紅里
浮草と薄氷（うすらい）の後朝（きぬぎぬ）とでも（岐阜県揖斐川町）野原武
ヴィンテージロック子猫の踊り出す（敦賀市）中井一雄

【評】一句目、白色が基調のグラタン皿の中に、ぐっと目立つ緑色。二句目、自分一人のために、ストーブよありがとう。三句目、小心の人もあがり性の人も、深呼吸して頑張れ。四句目、春が来たらまた絵を描いてほしい。八句目の作者は十歳。